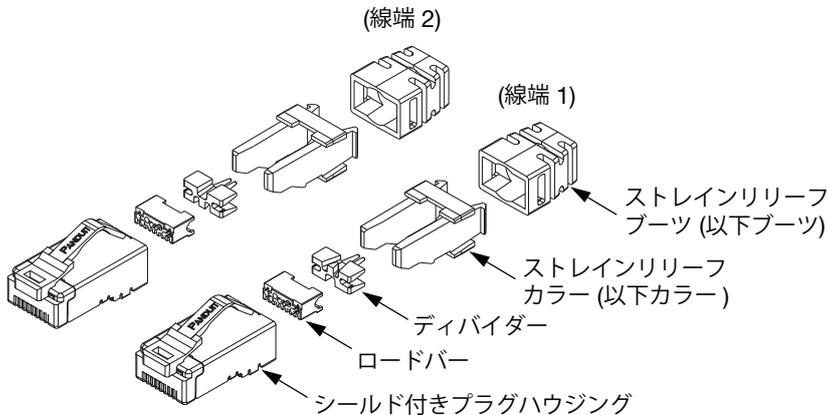


T568B 成端手順



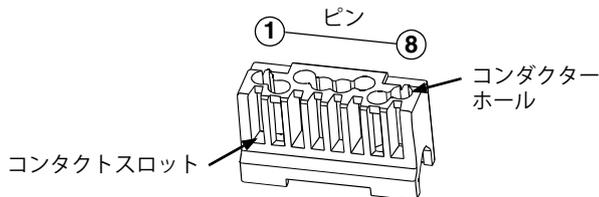
ピン番号	8	7	6	5	4	3	2	1
T568B	茶	茶/白	緑	青/白	青	緑/白	橙	橙/白

仕様

- ケーブル外被覆直径範囲 6.4mm (0.252 インチ) ~ 7.2mm (0.283 インチ)
- 24 - 26 AWG 導体絶縁直径 0.91 mm (0.036 インチ) ~ 1.07 mm (0.042 インチ)
- ケーブルが茶色対と橙色対で構成された T568B 結線方式をお勧めします。
- FTP、ScTP、SFTP、および STP/PIMF タイプのケーブルに使用します。ケーブルにはドレイン線または編組線が必要です。

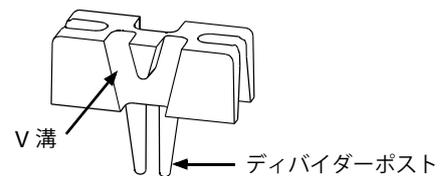
ロードバー

挿入時の向きに注意してください

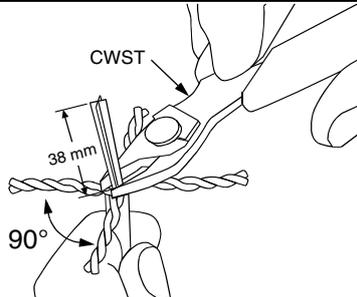
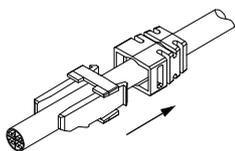


ディバイダー

V 溝とコンタクト番号の位置を確認してください

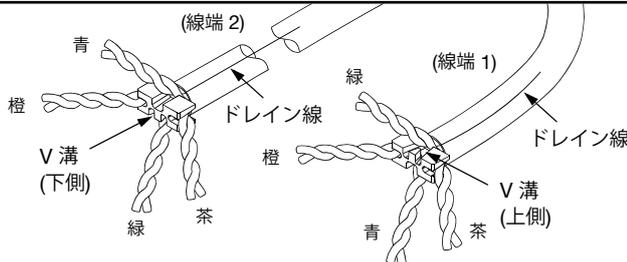


1 最初にブーツとカラーを挿入します (線端 1 & 2)



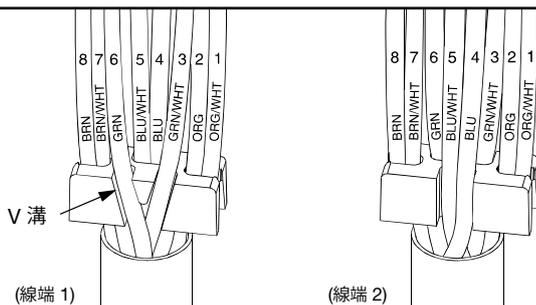
- ブーツとカラーを最初にケーブルに挿入します。
- ワイヤーストリッパー (CJAST) を使ってケーブルの端から 38 mm ほど外被覆を剥きます。
- 遮蔽用ホイルを剥きます。編組仕様の場合は、編組線でドレイン線を作ります。外被覆に沿うようにドレイン線を折り曲げます。
- 各対を十字方向に開きます。(放射状)
- 中央に介在物 (十字介在) がある場合は、ニッパー (CWST) を使って導線を曲げた根元から 4 mm ほどの所でカットします。

2

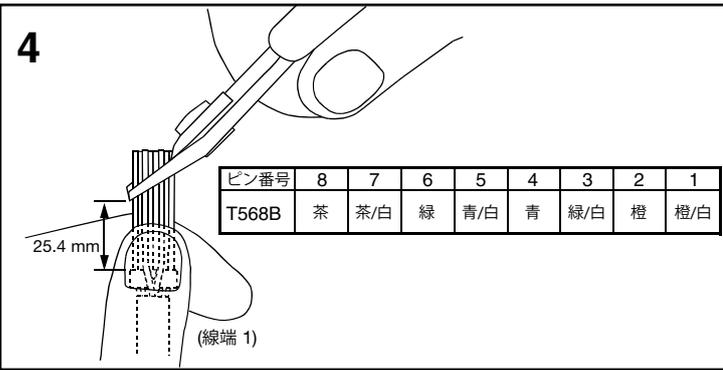


- 茶色対の対角側が橙色対となるように対の位置確認、または合わせを行い、再度各対を十字に開きます。
- ディバイダーの V 溝と緑色対が合うように V 溝の向きと位置を確認します。(十字介在があれば、ディバイダーをその中心部分に差し込みます。)

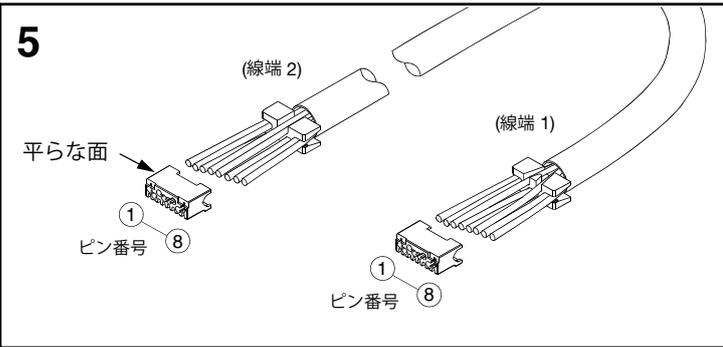
3



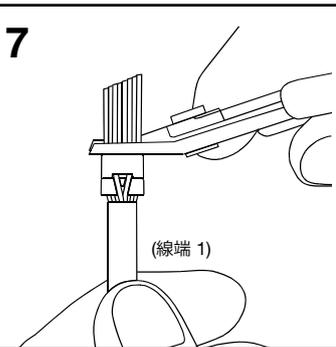
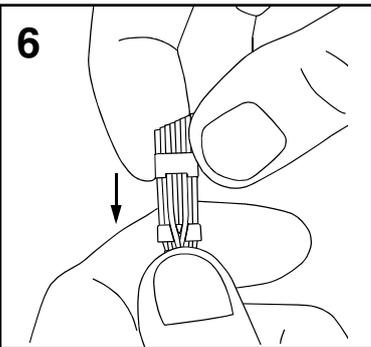
- ディバイダーの所まで、各対の捫りを戻します。
- 茶色対をディバイダーの茶色側溝に、茶白を先に茶色を後からハメ込みます。
- 橙色対は対角側の溝に、橙色を先に橙白を後からハメ込みます。(7 番、8 番と 2 番、1 番の溝にハメ込む)
- 青色対をディバイダー中央小さい方の溝に、4 番側が青色で 5 番側に青白となる所で色合わせします。
- 緑色対は、もう片面の V 溝となっている 3 番側が緑白で、6 番側が緑色となるように色合わせします。(4 番、5 番と 3 番、6 番の溝に合わせる)



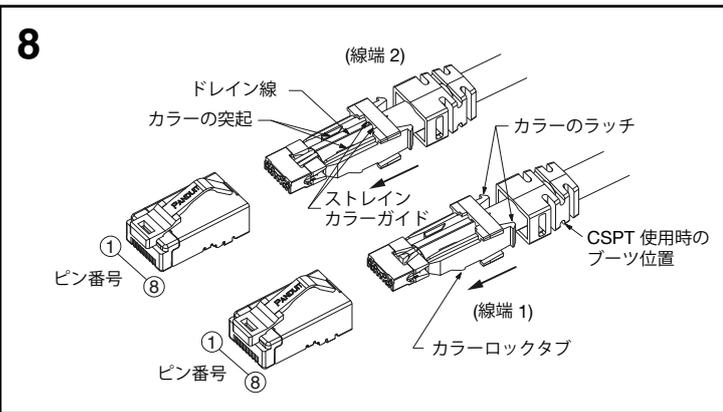
- ディバイダーを押さえながら、各対の撚りを戻して導線を真っ直ぐに伸ばします。
- 1番から8番ピンまで一列にして、ディバイダーから25 mmほど空けて導線を斜めにカットします。(ロードバーの挿入が容易になります)



- 左側が茶色となるようにディバイダーを持ち、ロードバーの平らな面が表になっている事を確認してロードバーを挿入します。

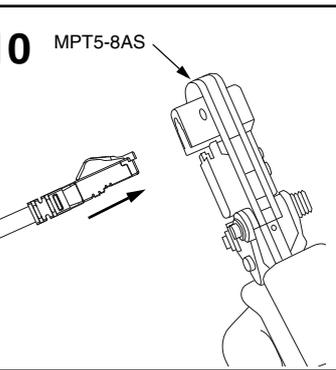
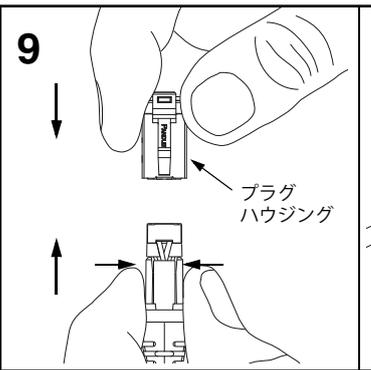


- ディバイダーとの隙間ができないようにしっかりと挿入します。
- 1番と8番の導線を少し外側に曲げます。
- 左側が茶色となるように、ディバイダーとロードバーを押さえながら、カラーの平らな面を表にしてディバイダーまで引き寄せます。その後、ロードバーの先端で余分な導線をカットします。



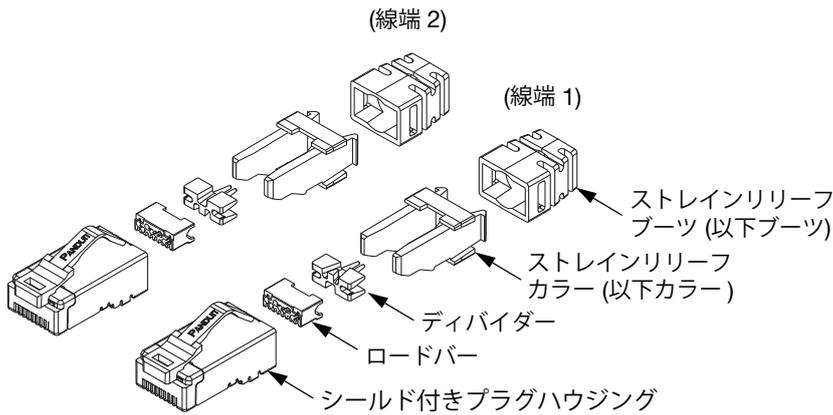
- ドレイン線が上になるようにケーブルの向きを調整します。
- 図のようにカラーの向きを確認してハウジングに挿入します。
- ドレイン線がストレインカラーガイドに沿っていることを確認します。

☆ 挿入を補助する CSPT 工具があります。この工具を使用する時には、ブーツは装着しないでください。



- 外被覆がハウジング内に収まるように調整し、ラッチするまでカラーを挿入します。
- 圧接工具 MPT5-8AS を使用して一括圧接します。
- 余分なドレイン線はカラーラッチの間で切断もしくは押し込んで処理します。
- ブーツを装着して成端が完了します。

T568A 成端手順



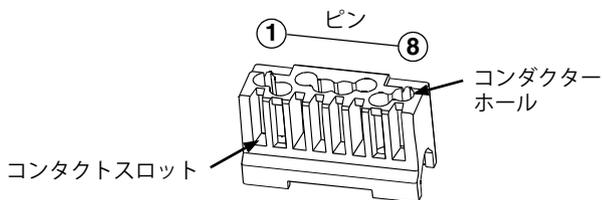
ピン番号	8	7	6	5	4	3	2	1
T568A	茶	茶/白	橙	青/白	青	橙/白	緑	緑/白

仕様

- ケーブル外被覆直径範囲 6.4mm (0.252 インチ) ~ 7.2mm (0.283 インチ)
- 24 - 26 AWG 導体絶縁直径 0.91 mm (0.036 インチ) ~ 1.07 mm (0.042 インチ)
- ケーブルが緑色対と茶色対で構成された T568A 結線方式をお勧めします。
- FTP、ScTP、SFTP、および STP/PIMF タイプのケーブルに使用します。ケーブルにはドレイン線または編組線が必要です。

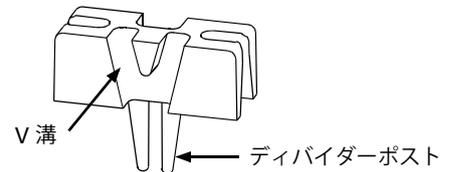
ロードバー

挿入時の向きに注意してください

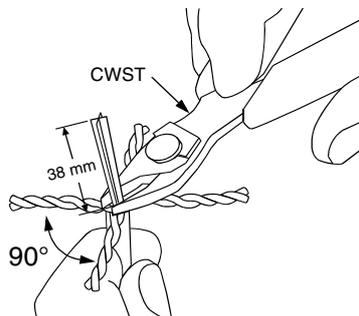
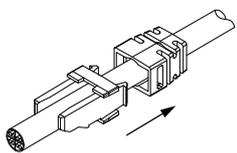


ディバイダー

V 溝とコンタクト番号の位置を確認してください

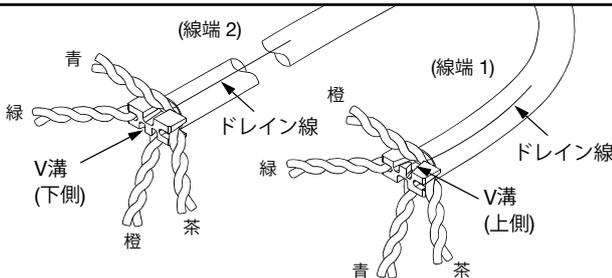


- 1** 最初にブーツとカラーを挿入します (線端 1 & 2)



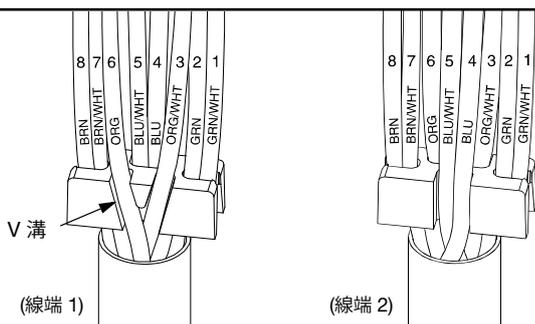
- ブーツとカラーを最初にケーブルに挿入します。
- ワイヤーストリッパー (CJAST) を使ってケーブルの端から 38 mm ほど外被覆を剥きます。
- 遮蔽用ホイルを剥きます。編組仕様の場合は、編組線でドレイン線を作ります。外被覆に沿うようにドレイン線を折り曲げます。
- 各対を十字方向に開きます。(放射状)
- 中央に介在物 (十字介在) がある場合は、ニッパー (CWST) を使って導線を曲げた根元から 4 mm ほどの所でカットします。

- 2**



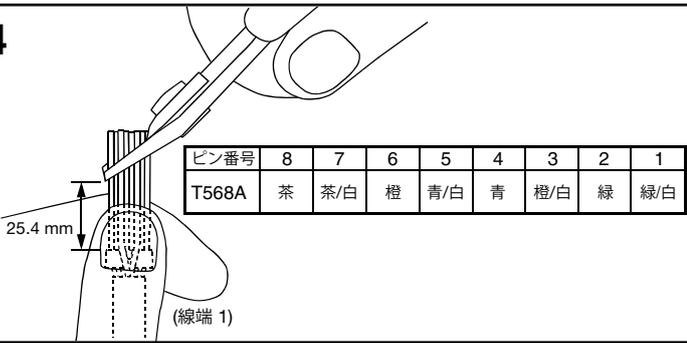
- 茶色対の対角側が緑色対となるように対の位置確認、または合わせを行い、再度各対を十字に開きます。
- ディバイダーのV溝と橙色対が合うように V 溝の向きと位置を確認します。(十字介在があれば、ディバイダーをその中心部分に差し込みます。)

- 3**



- ディバイダーの所まで、各対の撚りを戻します。
- 茶色対をディバイダーの茶色側溝に、茶白を先に茶色を後からハメ込みます。
- 緑色対は対角側の溝に、緑色を先に緑白を後からハメ込みます。(7番、8番と2番、1番の溝にハメ込む)
- 青色対をディバイダー中央小さい方の溝に、4番側が青色で5番側に青白となる所で色合わせします。
- 橙色対は、もう片面のV溝となっている3番側が橙白で、6番側が橙色となるように色合わせします。(4番、5番と3番、6番の溝に合わせる)

4

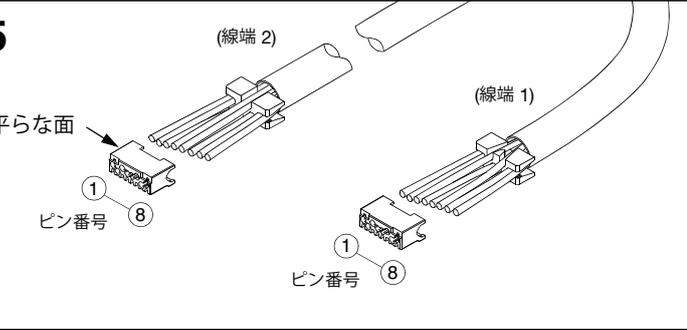


ピン番号	8	7	6	5	4	3	2	1
T568A	茶	茶/白	橙	青/白	青	橙/白	緑	緑/白

(線端 1)

- ディバイダーを押さえながら、各対の撚りを戻して導線を真っ直ぐに伸ばします。
- 1番から8番ピンまで一列にして、ディバイダーから25 mmほど空けて導線を斜めにカットします。(ロードバーの挿入が容易になります)

5



(線端 2)

平らな面

①

ピン番号 ⑧

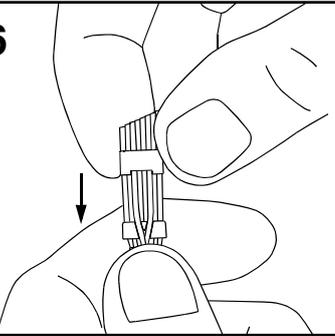
(線端 1)

①

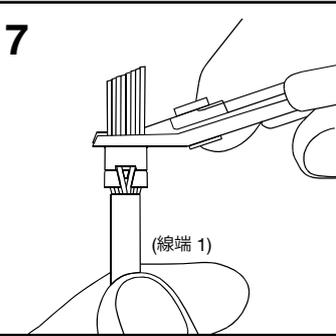
ピン番号 ⑧

- 左側が茶色となるようにディバイダーを持ち、ロードバーの平らな面が表になっている事を確認してロードバーを挿入します。

6



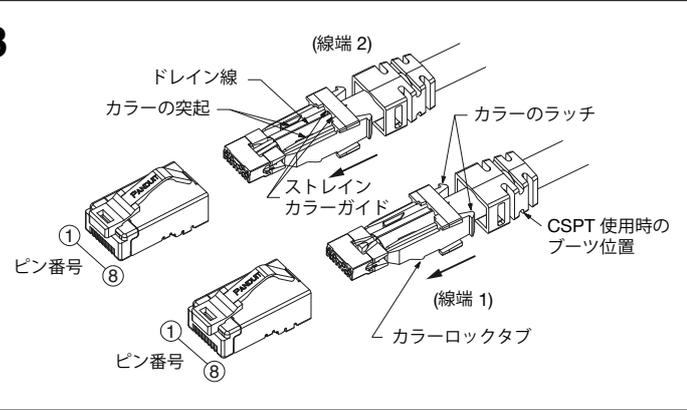
7



(線端 1)

- ディバイダーとの隙間ができないようにしっかりと挿入します。
- 1番と8番の導線を少し外側に曲げます。
- 左側が茶色となるように、ディバイダーとロードバーを押さえながら、カラーの平らな面を表にしてディバイダーまで引き寄せます。その後、ロードバーの先端で余分な導線をカットします。

8



(線端 2)

ドレイン線

カラーの突起

カラーのラッチ

ストレインカラーガイド

CSPT 使用時のブーツ位置

カラーロックタブ

(線端 1)

①

ピン番号 ⑧

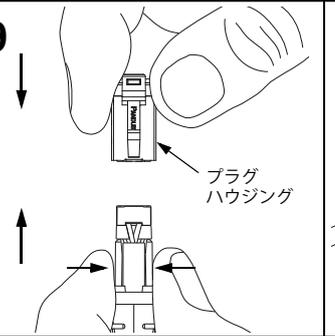
①

ピン番号 ⑧

- ドレイン線が上になるように、ケーブルの向きを調整します。
- 図のようにカラーの向きを確認してハウジングに挿入します。
- ドレイン線がストレインカラーガイドに沿っていることを確認します。

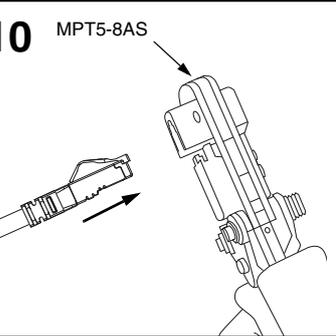
☆ 挿入を補助する CSPT 工具があります。この工具を使用する時には、ブーツは装着しないでください。

9



プラグハウジング

10 MPT5-8AS



- 外被覆がハウジング内に収まるように調整し、ラッチするまでカラーを挿入します。
- 圧接工具 MPT5-8AS を使用して一括圧接します。
- 余分なドレイン線はカラーラッチの間で切断もしくは押し込んで処理します。
- ブーツを装着して成端が完了します。